

英国のロックダウン緩和ロードマップと自転車黄金期

英国のロックダウン緩和ロードマップ

英国のボリス・ジョンソン首相は5月10日夜のビデオ演説で、新型コロナウイルス感染拡大防止のため施行されている外出規制や店舗閉鎖などを段階的に緩和するロードマップの概略を明らかにし、「Stay Home」に代わる新たなスローガン「Stay Alert」を打ち出しました。

まず第1段階として、5月13日から、自宅では従事不可能な職種（製造業や建設業を例示）について、可能な限り公共交通機関の利用を避けるよう求めつつ、徒歩、自転車、車通勤での就業を奨励し、外出規制を部分的に緩和（1日1回の屋外での運動の回数制限撤廃、公園での日光浴、同居家族または同居家族以外1名のみとのスポーツ、自家用車による外出を容認）します。

第2段階として、早ければ6月1日から、小売店と学校の閉鎖措置を段階的に緩和、第3段階として、早ければ7月4日から、飲食店、ホテル、娯楽施設などのホスピタリティ業界と公共施設のほか、美容院等のパーソナルケア業界の閉鎖措置を部分的に緩和していくとしています。

英国交通省は5月12日、各種手段による交通移動をより安全に行うためのガイダンスを公表しましたが、可能な限り在宅勤務すること（Work from home）、遠距離移動しないこと（Stay local）、徒歩か自転車を利用することを求めつつ、最短移動やオフピークなどよく計画を立て、移動中は2メートル間隔確保やマスク着用を心がけ、移動後は手洗いを徹底することなどを求めています。

ロンドン交通局も、社会的距離確保などの対策を講じることで輸送量は平時より大幅に下がるため、ロックダウン以前のような交通網（運行）に戻ると期待してはならないと強調しています。ロンドン市民は、できる限り自宅から仕事を続け、在宅勤務ができない人々のための安全な移動を確保する必要があるとし、地下鉄・バス内での社会的距離を確保するには、通常時に比べ85%以上利用を抑制しなければならないと呼び掛けています。

【英国政府が発表した公共交通機関利用時のガイドライン】。



1. Is your journey necessary?
Before you travel you should consider whether your journey is necessary. You can reduce pressure on the public transport system and road network by:

- Working from home
- Shopping locally and less frequently
- Walking and cycling

2. Plan your journey

- Plan ahead and use a direct route
- Can you travel off-peak?
- Take hand sanitiser and a face covering, if you can
- If you require assistance you should continue to request this as you normally would
- Wash or sanitise your hands before beginning your journey

3. On your journey

- Maintain 2 metre distance where possible
- Use a face covering, if you can, when you will be close to others
- Use contactless payment where possible
- Be patient and follow instructions from transport staff
- Wash or sanitise your hands as frequently as possible

4. Completing your journey
When finishing your journey, you should:

- Follow guidance at your destination
- Walk and cycle from public transport to your destination, where possible
- Wash or sanitise your hands as soon as possible

STAY ALERT • CONTROL THE VIRUS • SAVE LIVES

For further information visit www.gov.uk/coronavirus

アフターコロナを見据えた自転車交通インフラ強化

ボリス・ジョンソン首相は、5月1日に開催された英国国内主要都市各市長との電話会議で「コロナ禍で衰退した経済を迅速に回復させるためには、国民が安心出来るグリーンでエコな交通網の推進が必要だ。その実現のために都市部における自転車の交通インフラを強化し、自家用車の削減を更に進めて欲しい」と通達しました。

5月9日に英国運輸国務長官は、自転車の交通インフラ強化のため、20億ポンド（約2,620億円）規模の政策を発表し、うち2.5億ポンド（約325億円）を直ちに地方自治体に交付し、自転車専用道の設置などに振り向けるとしました。

自転車愛好家として知られるボリス・ジョンソン首相は、これにより「サイクリング黄金期」が訪れるとコメントしています。

英国運輸国務長官のガイダンス

英国運輸国務長官から出されたガイダンスには次のような自転車の交通インフラ強化策が列挙されています。

- 自転車専用レーンを設置： 柔らかいプラスチックなどで自転車専用レーンを分離する。
- カラーコーンとバリアによって自転車と歩行者を分離： バス停周辺などではより多くのスペースを確保し、歩行者が社会的距離を保つことを可能にする。
- 徒歩通学や自転車通学を学校に奨励： 「通学路」の導入を促進する。
- 自動車の速度制限： 時速 20 マイル（約 33.8 km/時）以下の区間を、住宅や市街地の道路により広く採用する。
- 駐輪場の設置： 駐車を転用するなど、駅や大通りなどの主要な場所に追加の駐輪場施設を提供する。

自転車は、手頃な価格で、健康にメリットをもたらし、交通混雑を緩和し、大気汚染を改善し、地元の経済的利益を持続させるものであるとし、アフターコロナの有力な交通手段は自転車であると強く訴えています。

【ロンドン中心部でデモを行う環境保護団体（2019年10月）】



英国で最大 1,400 万人が自転車利用を希望

英国の自転車競技団体ブリティッシュ・サイクリングは 5 月 16 日、英国で最大 1,400 万人が自転車を定期的に利用することを望んでいるとの調査結果を発表しました。新型コロナウイルス対策の一環として、政府が公共交通機関から自転車への切り替えを促す中、同団体はこれが「交通革命」につながる可能性があるとの期待感を示しています。

また、同団体は、2050 年までに国民の移動手段の 25% が自転車で行われるようになれば、420 億ポンド（約 5 兆 4,600 億円）の経済効果が得られ、イングランドとウェールズの都市部で自転車利用を 1 人 1 日当たり 3 キロメートル、徒歩を 1 キロメートル増やせば、健康増進効果により国民医療制度（NHS）の負担が向こう 20 年間で 170 億ポンド（約 2 兆 2,100 億円）減ると試算しています。

【ボリス・ジョンソン首相も「自転車黄金期」に期待】



近年、英国では自動車の排気ガスによる公害削減にあたって、電車やバスなどの公共交通機関利用が呼び掛けられてきました。しかし、コロナ禍における社会的距離を保つことの必要性から、既に市民権を得ていた「自転車」が、より積極的に都市部の交通手段として推奨される機運が生まれてきています。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
 ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
 本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
 本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
 本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。